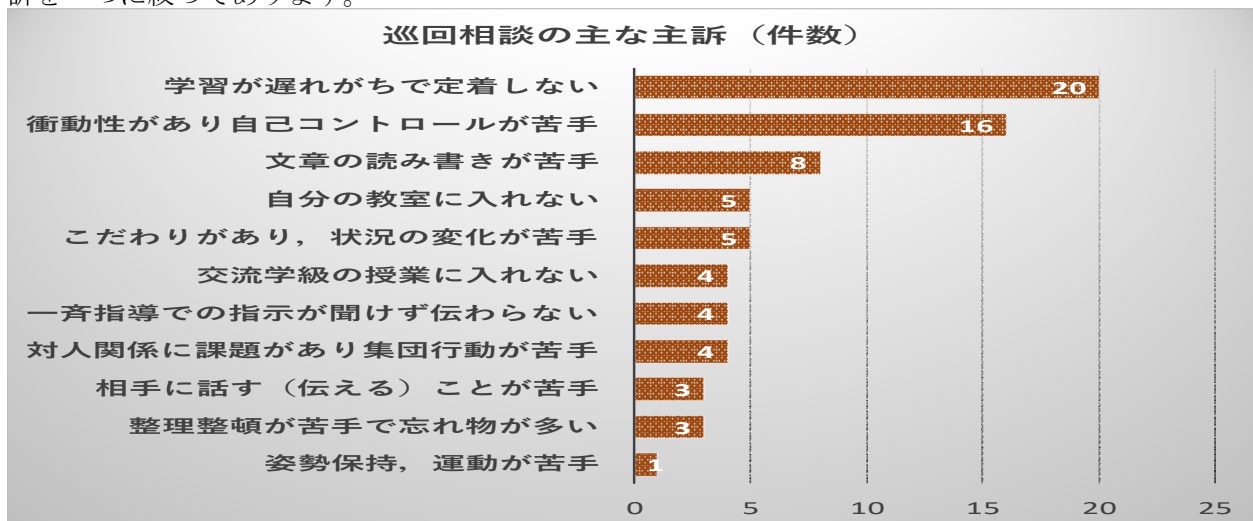


# 地域支援だより

県立南薩養護学校  
校外支援係  
No. 4  
令和3年7月16日

## 1学期巡回相談のまとめ

おかげさまで、1学期の巡回相談が終わりました。学校として丁寧に対応していただきありがとうございました。保育園1回、小学校23回、中学校8回、義務教育学校1回、高校1回の計34回、73人の相談件数でした。主な主訴を分類して、グラフにしてみました。件数は、代表的な主訴を一つに絞ってあります。



主な助言内容は次のとおりです。

「学習が定着しない。」

- ・ 教研式知能検査の結果を確認する。（AタイプかBタイプか）
- ・ 保護者の了解が得られれば、WISC-IIIの検査をして、認知特性を調べる。
- ・ 認知特性に応じた支援を行う。
- ・ 特別支援学級での体験学習を行う。

「自己コントロール、対人関係、集団行動が苦手、注意散漫で忘れ物が多い。」

- ・ 合法的な立ち歩きタイムを設定する。
- ・ 友達の意見を発表するためのペアトークをする。
- ・ クラスの中での居場所を確保する。
- ・ 違いを認める学級づくりを行う。

「自分の学級に入れない」

- ・ 専科、管理職も含めた校内支援体制で見守る。
- ・ 特別支援学級での体験学習を行う。

「こだわりがあり、状況の変化が苦手」

- ・ 授業の見通しをもたせるためのユニット化、見える化をする。
- ・ それほど回りが困らないこだわりは特性としてある程度認める。

「交流学級の授業に入れない」

- ・ 本人の実態に合わせて交流学習の内容を工夫する。
- ・ 特別支援学級での「生活単元学習」などを充実させる。

「一斉指導での指示が伝わらない」

- ・ 言葉だけの指示ではなく、写真や文字で提示する。
- ・ 1動作1指示を行う。（重ねて指示を出さない。）

「読み書きが苦手」

- ・ 教科書の漢字にルビをふる。分かち書きの線を入れる。
- ・ 文章を蛍光ペンで一行おきになぞる。
- ・ 書く量を制限する。板書内容をメモして渡す。

「話すことが苦手」

- ・ 本人の発する単語を意味をふくらませて返し、話し方のモデルを示す。
- ・ 写真や実物を使い、話したいことをよりイメージしやすいようにする。



これからも「全員が楽しく、わかる、できる授業づくり」と「気になる子のいるクラスをまとめる学級づくり」について、お手伝いできればと思います。2学期の巡回相談もよろしくお願ひします。

文責 中蘭